

元気な子どもたちと一緒に新しい年を迎えることができました。今年も子どもたちのたくさんの笑顔が見られる学校にしていきたいと思えます。

8日の朝会で、子どもたちに小学校で身につけてほしいことは、校訓にある3つの心「意志、表現、感謝」ですが、新年の始まりに改めて皆さんに伝えたいことは、「皆さんが当たり前だと思うことがしっかりとできるようになってほしい」ということであると話しました。自分で考えて当たり前だと思うこと、人に言われて当たり前だと思うこと、そういうことができているかどうかを考えることが大切であると思ったからでした。

私が、今年の年賀状のメッセージにしたのは、「あいさつは 心のとびらをひらきます。えがおは 心と心をつなぎます。できることからはじめよう。」でした。「あいさつ」は誰もができます。そして、一人ひとりが素敵な「えがお」を持っています。それは日々の生活で最も大切なものだと思います。

【子どもを支える力】

人には、よいところ・素敵などころもあれば、できればもう少しがんばってほしいと思うこともあります。特に子どものことは親として心配になることが多いと思えます。もっとできるはずだ、もっとできてほしい。そういう思いを持つのは親として当然のことでしょう。子どもと向き合おうとすればするほど、「もっと、もっと」という気持ちが強くなるかもしれません。しかし、真剣に子どもと向き合うということは「目の前にいる子どもの今を受け入れる」ということではないでしょうか。今日の前にいる子どもは皆さんにはどう見えるのでしょうか。よいところがたくさん見えるはずですが、ときには親が望む変化・成長が見られないことへの不安や苛立ちを感じることもあるかもしれません。しかし、その感情を子どもに向けることはやめましょう。子どもに向けたそのような感情は形を変えてはね返ってきます。また、学校や教員に対しての不満となってしまうこともあるかもしれませんが、少し冷静になれば、それも問題の解決につながらないことが分かるにはそれほど時間を要さないでしょう。学校に対しても、他の人に対しても、不満を言うことは子どもの成長の妨げにこそなりますが助けにはなりません。

子どものことで何か心配なことがあれば何でも担任に話してください。親と先生が心を開いて自分のことを相談し、真剣に考えてくれていることが子どもに伝わったとき、子どもには安心感が生まれ、それが親と教員への信頼感となり、さらには物事へ取り組む意欲となって表れてきます。子どもを支えるというのはそういうことではないでしょうか。

ある方が話してくれました。「学校や先生に変えてもらうのではなく、変えたいところ、成長させたいところをどうしていったらよいかを学校や先生を頼りにして一緒に考えるのが子どものためのように思います」と。

【染み込む】

子どもは身近にいる大人たちを見ながら生活していて、そこで多くのことを学びます。そして、ときに本人の意思によるものではなくても多くのことが自然に身につけてしまいます。その状況はまさに「染み込む」というような言い方がふさわしいかもしれません。気をつけなければならないことは、子どもたちには自分に降り注ぐ全てのものの中からよいものとそうでないものを自らの力で選別・選択する力、さらには拒む力がまだ十分に備わっていないということです。

そういう意味で分かりやすいのが言葉遣いに象徴されるような乱暴な言動です。大人が遣う言葉、様々なメディアから耳に入る言葉や情報もそうですが、私たちが作る環境は、ときに子どもを伸ばし、ときに迷わせ、ときに好ましくない方向に導いてしまうこともあります。そして、子どもたちの日々の生活が少しずつ乱れていくようなことに気付くことが遅くなってしまい、子どもたちに悪い言葉などが定着してしまってから、「これではいけない、なんとかしなければ」と考え始めることが多いのです。

みなさん、今日の前にいる子どもたちを見てください。言葉遣いの乱れはありますか、それはまだ改善できそうですか。いえ、改善できるはずですよ。諦めずに声をかけていきましょう。

【気になる言葉】

12月のある朝のこと、校庭から聞こえてきた子どもの言葉が「おまえはちびで何の役にもたたない」というものでした。その方向に目をやると確かに何人かの子どもたちが遊んでいる姿がありました。あの遊びの中でつい出てしまった言葉なのかもしれませんが、ためらいも無く発せられたように思えたその言葉がしばらく私から離れることはありませんでした。その場に行き、ただちに注意をすることも考えたのですが、私はそのときに各担任に朝の会でそのような言葉の持つ意味について話してもらうことにしました。後日朝会でも全校の子どもたちに考えてもらいました。

「おまえ」「ちび」「役にたたない」はそれぞれみんな問題があることばです。どんな言葉がいけない言葉であり、人を傷つける言葉であるかをしっかりと理解してほしいと思えました。